



弥生三月、今年もひな祭りの季節が到来した。日本古来の伝統的な女子の節句行事であり、全国どここの家庭でも大なり小なり行われていて、男子の端午の節句に比べより華やかな印象を受ける。

だが、ここ二十年ほど日田の町ではひな祭りといえは市内の豆田町などを中心とした旧家などに古くから伝わるひな人形を展示し、多くの観光客が訪れる一大イベントを指すことが多い。ひな祭りは本来各家庭で女子の健やかな成長を願うものであったが、これを町おこしの引き金にしたのは実は日田市が日

本で最初なのである。

草野本家のひな祭り公開も今年米寿を迎える母が、二十二年前町おこしに意欲を燃やす若者たちに呼応して少しも役に立てばと思立ったものであった。今では全国各地に広がって

ひな祭り



草野 義輔

議であった。また、わが家の前には今でこそ二けたを数えるお店が軒を連ねているが、当時は一軒のお店もなかった。ひな祭り町おこし大成功である。豆田町のひな祭りが町おこしに成功したのは、やはり本物だけを見てもらうようにした素人の丁寧さが好評だったこと、既存の組織に頼らずすべて自力で立ち上げたこと、だと思ふ。偽物や支援頼みでは決して長続きはしなかったであらう。

脊になると方々で当然のように観光ひな祭りが催されている。私が豆田の町に帰ってきた二十七年前は人通りも少なく、商店街の人たちはどうやって商売をやっているのかと不思議

しかし、二十年を過ぎた今、曲がり角にさしかかっていることも事実である。本物を大切にしながらより新しい感覚を盛り込まなければ次への飛躍はこないだろう。正念場である。

(日田市昭和学園高校理事長)